

●ぼくは、マジシャン。実はぼくに
●は人には言えないひみつがある。
●それは、ぼくのマジックにはたね
●も仕かけもないのである。
●つまり、どういうことか、ぼくは
●マジシャンではなく、まほう使い
●なのである。
●空をとぶマジックも、スプーンを
●曲げるマジックも、全て本当にま
●ほうをかけてやっていることなの
●である。
●なぜか、ぼくにできないことは何
●一つないのである。
●そんなある日、ぼくはものすごい
●ことに気づいてしまった。
●マジックショーをしてお金をかせ
●がなくても、まほうで食べ物や、
●飲み物が出せて、それでくらし
●いけるということを。
●そして、ぼくはマジシャンをやめ
●一人で幸せにくらしたとき。

問い 1

主人公はマジシャンではなく

() である

問い 2

主人公がある日気がついてしまった

ものすごいこととは

()